

保育所 公表日 R8.3.1

作成者:施設長 江渕 景子

※ 今年度のえぶちにしや園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かせる方向で記入する。

・ A、B、C、Dの4段階評価です。該当する欄に○を付けてください。

項目毎ごとに意見・改善策があれば記述する。

A : たいへんよい
 B : よい
 C : 一部検討を要する
 D : 改善を要する

項目

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

| 項目 | 内容 | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|--|
| | | A | B | C | D | |
| 保育目標について | (1)保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。 | | ○ | | | 保育所保育指針に基づき、全職員が子ども一人ひとりに合わせた保育を意識して実践できるよう取り組んだ。 人権に配慮した目標を掲げ、園舎全体で「不適切保育」への意識を高めることに努めた。 これまで「不適切保育」に関する課題や気づきを職員自身が主体的に発信する機会が十分ではなかったため、今後は職員全体で問題点や疑問点を共有し、組織として適切に対応できる体制づくりを進めていく必要がある。 |
| | (2)目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。 | | ○ | | | |
| | (3)目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。 | | ○ | | | |
| | (4)目標は、前年度の反省を生かしているか。 | | ○ | | | |
| | (5)目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。 | ○ | | | | |
| 保育について | (1)指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。 | | ○ | | | 0～2歳児クラスでは、月齢に応じて定期的に保育環境の見直しを行い、よりよい保育が実践できるよう改善に取り組むことができた。 3～5歳児クラスでは、遊びの環境や保育者の配置を見直し、必要に応じて改善を進めた。その結果、子どもが自ら遊びを選択し、伸び伸びと遊び込む姿がこれまで以上にみられるようになっている。 今後も園全体で、遊びを中心とした主体性を育む環境構成について、学びを深めながら継続的に取り組んでいきたい。 |
| | (2)保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。 | | ○ | | | |
| | (3)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。 | | ○ | | | |
| | (4)素材・用具を適切に活用しているか。 | | ○ | | | |
| | (5)評価結果を基に、保育の改善に努めているか。 | | ○ | | | |
| 日時程 | (1)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよいか。 | | ○ | | | ゆとりある一日の流れとなるよう、保育内容や動線を見直し、改善に努めた。一人ひとりの子どもにより丁寧に寄り添う保育を実践していくためには、引き続き検討と工夫を重ねていく必要がある。 |
| 行事について | (1)行事の種類や実施回数は適切か。 | | ○ | | | SDGsや食育の取り組みを毎月実施し、子どもたちが分かりやすく理解できるよう工夫しながら進めた。 保護者参加行事としては、親子フェスティバル(運動発表)、お楽しみ会(発表会)、誕生会参観、英語参観、個人面談、保育参加・参観などを設定し、日常の保育活動の中で見られる子どもの成長を共有できるよう努めた。また、今年度から新たに体操教室とリトミックを導入し、保護者が参観できる機会も設けた。 今後も、行事ならではの特別感を大切にしつつ、日々の積み重ねの中にある子どもの成長を保護者と共有し、共に喜び合える行事づくりを目指していきたい。 |
| | (2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしている | | ○ | | | |
| | (3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。 | ○ | | | | |
| | (4)行事の振り返りを計画や実施に十分生かしているか。 | | ○ | | | |
| | (5)保護者の願いや意見を取り入れているか。 | | ○ | | | |

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 意見・改善策 |
|---------------------------------|--|---|---|---|--|---|
| | | A | B | C | D | |
| 経営・組織 | 分掌・体制 | (1)能率的、合理的な運営組織になっているか。 | | ○ | | 適材適所の人材配置を行い、一人ひとりの子どもと丁寧に関われるよう、配置基準より多くの職員を配置している。 また、1年間の役割分担(係)を事前に周知したことで、新人職員の育成を計画的かつ余裕をもって進めることができた。 |
| | | (2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。 | | ○ | | |
| | | (3)職員の配置は適材・適所か。 | | ○ | | |
| | | (4)係や仕事の分担・割り当ては適切か。 | | ○ | | |
| | 運営 | (1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。 | | | ○ | 週会議、幼児会議、クラス会議、リーダー会議など、複数の会議体を通して情報共有を行うことができた。 一方で、来年度以降は会議の目的や役割を再整理し、より効率的かつ効果的な情報共有の仕組みへと見直していきたい。 |
| | | (2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。 | | ○ | | |
| | | (3)打合せ回数、時間、内容は適切か。 | | | ○ | |
| | 年齢別・クラス経営 | (1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。 | | ○ | | 保育所保育指針を基に指導計画へ適切に反映し、日々の保育に活かすことができた。 クラス目標については、子どもの姿に応じて臨機応変に見直し、細やかに対応する姿勢が見られた。一方で、年間を通した見直しを持ち、計画的に目標を構築していく視点をさらに強めていくことが今後の課題である。 また、学年ごとのチーム保育にとどまらず、異年齢や園舎を越えた園全体でのチーム保育に視点を広げ、環境構成や職員配置について主体的に検討することができた。今年度は異年齢交流の開始時期を早めたことで、園舎間での交流機会を多く設けることができ、子ども同士の関わりが広がりにもつながった。 |
| | | (2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。 | | ○ | | |
| | | (3)年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。 | | ○ | | |
| (4)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。 | | ○ | | | | |
| (5)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。 | | | ○ | | | |
| (6)評価、資料(諸記録)を集積しているか。 | | | ○ | | | |
| 保健・安全指導 | (1)年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。 | | ○ | | 今年度は、毎月の救急対応訓練を計画的に継続し、避難訓練も職員間での検討を重ねることで内容がより実践的に充実してきた。 また、保護者参加型の引き渡し訓練を実施し、「171災害伝言ダイヤル」の活用にも取り組んだが、周知不足により利用家庭が少ないという課題があった。 来年度は、周知方法や伝え方を工夫し、保護者が参加しやすく実際の活用につながる仕組みづくりが必要である。 | |
| | (2)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。 | ○ | | | | |
| | (3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。 | ○ | | | | |
| | (4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。 | ○ | | | | |
| 研究・研修 | 所内研究 | (1)研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。 | | ○ | | 救急対応訓練では、担当者が内容を研究し職員研修として共有することで、園全体の知識と対応力の向上につながる取り組みを継続できた。また、担当職員がSDGsに主体的に取り組み、園児にもわかりやすく伝える活動を行ったことは、園としての学びの幅を広げる機会となった。 さらに、今年度はリーダーが各クラスの課題に着目し、話し合いを取り入れた園内研修を実施した。実施後のアンケートでも高い評価が得られ、次年度以降も継続して取り組む価値がある内容である。 |
| | | (2)所内研修の計画・運営は適切か。 | | ○ | | |
| | | (3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。 | | ○ | | |
| | | (4)研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。 | | ○ | | |
| 所外研究・研修 | (1)各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。 | | ○ | | 今年度は、神奈川県主催の「不適切な保育防止研修」を全職員が年度初めに受講し、園全体で共通理解を深めることができた。 一方で、乳児クラスでは午睡時間の関係から研修時間の調整が難しく、十分な学びを確保しにくい場面もあった。 今後は、乳児担当職員が参加しやすい研修方法や時間帯の工夫が必要である。 | |
| | (2)各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。 | | ○ | | | |

| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 意見・改善策 | |
|-------------|----------------------------------|--|---|---|---|--|--|
| | | A | B | C | D | | |
| 情報について | (1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。 | | ○ | | | 個人情報保護に関する規定を整備し、それに基づいて適切に運用することができた。 一方で、今年度は個人情報保護やコンプライアンスについて学ぶ機会を十分に設けることが難しくかったため、次年度に向けて研修機会の確保や学びの場の充実を図る必要があると感じた。 | |
| | (2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。 | ○ | | | | | |
| | (3)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。 | | ○ | | | | |
| 施設・設備 | (1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。 | ○ | | | | 毎朝、安全点検リストに基づいて保育環境を確認し、乳児園舎では玩具の消毒・点検を徹底することで、衛生と安全の確保に努めている。 今年度は不審者対応訓練を年2回実施し、改善点の検討を通して職員間の共通理解を深めることができた。 また、昨年度は実施できなかった保護者参加型の引き取り訓練を実施し、新たに「171災害伝言ダイヤル」を導入するなど、防災体制の強化にも取り組んだ。今後も保護者への防災意識の啓発を継続し、園全体の防災力向上を図っていく。 | |
| | (2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。 | ○ | | | | | |
| | (3)不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。 | | ○ | | | | |
| | (4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。 | ○ | | | | | |
| 出納・経理 | (1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。 | | ○ | | | 適宜実施している。 | |
| 開かれた保育所づくり | 施設 間 交 流 ・ 連 携 | (1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。 | | ○ | | 今年度は、早い段階から乳児園舎と幼児園舎の交流に取り組むとともに、姉妹園であるえびづち保育園とも、同年齢・異年齢など多様な形態での交流を行うことができた。これらの取り組みを通して、子どもたちの関わりは一層広がり、園全体としてのつながりを深める貴重な機会となった。 近隣保育園との公園交流に加え、5歳児と川島小学校・上菅田笹の丘小学校の1年生および5年生との交流を複数回実施した。その中で、子どもたちの小学校への期待感が高まっていく様子が見られた。 また、幼保小交流事業の一環として近隣保育園を訪問し、他施設における保育の進め方を学ぶとともに、情報交換を行った。 今後もより良い関係性を築きながら、継続的に交流を進めていきたい。 | |
| | | (2)他施設等の幼児児童生徒と触れ合う中で、(乳)幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。 | ○ | | | | |
| | | (3)指導者どうしが、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。 | | ○ | | | |
| | | (4)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。 | | ○ | | | |
| | | (5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。 | ○ | | | | |
| 家庭や社会との地域連携 | | (1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。 | | | ○ | 月1回の地域高齢者との交流や、ハロウィン行事での商店街の協力など、今年度も地域との連携を継続して進めることができた。保育士が地域イベントに参加して子育て支援を行うほか、園外活動で地域住民へ積極的に声をかけるなど、日常的な関わりを通して交流の輪を広げ、多くの方に園の魅力を伝える機会が増えた。 一方で、「あったか食堂」は内容の見直しを進めてきたものの、参加者が少ない状況が続いている。今後は周知方法や実施方法を改善し、より参加しやすい環境づくりに取り組む必要があると感じている。 | |
| | | (2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。 | | | ○ | | |
| | | (3)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。 | | | ○ | | |
| | | (4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。 | ○ | | | | |

| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 7 |
|---|--|----|---|---|---|--|
| | | A | B | C | D | |
| 開 か れ た 支 援 の 保 育 推 進 所 づ く り | (1)地域の子育てセンターとして、園庭や中庭、保育室等を開放しているか。 | | ○ | | | <p>掲示板を見やすく整えるなど、情報が目に留まりやすい工夫を行ったことで、園行事への参加が複数見られた。</p> <p>子育て相談や保護者支援については、園外の方への対応は今後の検討課題である一方、在園児の保護者に対しては個人面談を導入し、支援体制を強化することができた。</p> <p>日頃から保護者からの相談にはその都度丁寧に対応し、園側からも必要に応じて声を掛けるなど、面談の機会を設けながら継続的な支援に努めている。</p> <p>また、区役所・療育機関・子ども医療センターなどの専門機関と連携を図り、配慮が必要な家庭に対して適切な支援を行うよう努めた。</p> |
| | (2)地域に住む子どもどうし、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。 | | ○ | | | |
| | (3)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。 | | | ○ | | |
| | (4)職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。 | | ○ | | | |
| | (5)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。 | ○ | | | | |
| 情 報 の 発 信 | (1)保育所だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。 | ○ | | | | <p>ホームページでは、園だより・クラスだより等の情報を公開するとともに、保護者アンケートの掲載も行い、施設に関する情報発信の充実を図っている。</p> <p>また、保護者向けには限定公開のYouTube配信やドキュメンテーションを作成し、子どもたちの日常の様子や行事への取り組みを積極的に発信した。</p> |
| | (2)行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。 | | | ○ | | |
| 外 部 評 価 | (1)第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。 | | ○ | | | <p>第三者評価を実施し施設運営に反映している。</p> |
| | (2)地域や保護者の意見を施設運営に反映している | | | ○ | | |
| 次 年 度 に 向 け て の 考 察 | <p>・「しあわせの種をまく保育」の実現に向け、一人ひとりの成長を保護者の方と共に喜び合う機会を増やすとともに、「子どもの主体性を大切に保育」を社会福祉法人パピーランドの法人での共通理念として共有し、日々の保育に取り入れることができた。来年度も、職員が共通の理念をもって保育に取り組むことで、一貫した「教育」と「養護」の充実を図っていく。</p> <p>・低年齢から配慮を必要とする子どもの増加に伴い、成長発達に関する適切なアドバイスの提供や専門機関との連携を進め、年齢や特性に応じた支援方法を学び実践することができた。また、職員体制に余裕を持たせることで「一人ひとりの子どもとの関わりを大切に」姿勢を保ち、すべての子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めた。今後もより良い環境の在り方を継続して模索していきたい。</p> <p>・当園では職員の質の向上を重要な課題と捉え、一人ひとりが自身の保育を振り返り、より良い保育を目指して取り組んでいる。今年度は「保育の質の向上」を目的に、園内研修・クラス内研修・個人研修など多様な学びの場を設けることができた。社会情勢の変化により「不適切保育」や「少子化」など保育の在り方が問われる中、当園に通う子ども・保護者・地域にとってより良い園であり続けるため、職員自身の働きやすさや成長も大切にしながら、園全体で引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>・今年度はドキュメンテーション掲示に加え、YouTubeでの限定動画配信にも力を入れ、園の魅力を積極的に発信することができた。日々の活動の様子や行事への取り組みを映像で伝えることで、保護者からも大変好評を得ることができた。次年度もPR活動をさらに充実させ、園の魅力と安心をより分かりやすく届けていきたい。</p> | | | | | |